

学 会 録 事

1. 日本藻類学会第39回大会（福岡）報告

(1) 日本藻類学会第39回大会（福岡）

上記大会を2015年3月20日（金）～22日（日）に九州大学箱崎キャンパスにて開催した。

大会1日目は、午後に編集委員会、評議員会を行った。2日目は、口頭発表（2会場）、ポスター発表（奇数番号）、公開特別講演会「大型藻類の未来ポテンシャルを求めて」（講師：植田充美氏）、総会、懇親会を行った。3日目は、口頭発表（2会場）、ポスター発表（偶数番号）、ワークショップ「藻類の和名について考える」（講師：北山太樹氏、坂山英俊氏、仲田崇志氏、真山茂樹氏、末友靖隆氏、半田信司氏、野崎久義氏）、ミニシンポジウム「大型藻類バイオリファイナリー研究の最新の進捗と将来展望」（講師：長山公紀氏、モリテツシ氏、吉川裕之氏、田丸浩氏）を行った。

また、ワークショップ「福岡の藻類採集・観察会」（講師：川口栄男氏、神谷充伸氏、藤田大介氏、河地正伸氏、鈴木秀和氏、高橋和也氏）を3月23日（月）、24日（火）に九州大学大学院農学研究院附属水産実験所で、引き続き、25日（水）に福岡県朝倉市で淡水ラン藻スイゼンジノリ養殖池・加工場見学（ガイド：遠藤淳氏）および小石原川沿い農業用水路にて淡水紅藻オキチモズクの生育地観察会（ガイド：飯田大和氏）を行った。

(2) 編集委員会・評議員会

大会1日目（3月20日）15:00より九州大学箱崎キャンパス共通講義棟206教室にて、英文誌および和文誌の合同編集委員会を行った。

英文誌については、神谷充伸英文誌編集委員長から「Phycological Research」の2014年度および2015年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2014年度については62巻が総頁数323頁、掲載論文数33編であったこと、2015年度については63巻1号に9編が掲載され、2号に9編の掲載予定で、3号以降の受理論文数は3月2日現在4編であることが報告された。編集にかかる日数、投稿者の国名、2013年までのインパクトファクターの推移、編集体制、料金（掲載料の撤廃と超過ページ代の値下げ）とレイアウトの変更、編集費の支出に関して報告があった。「Phycological Research」の「これまでどおり冊子体を継続する」、「冊子体の紙質だけ落とす」、「冊子体の印刷品質と紙質を落とし、希望者のみに配布する（上限200部のデジタル印刷）」、「冊子体の印刷を廃止する」という出版形態の変更について、WileyBlackwell社の算出費用をもとに、どの選択肢が検討に値するか、また浮いた費用をどのように編集に活用すべきかの審議を行った。WileyBlackwell社の荒生由香里氏から2014年度の英文誌出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明

があった。

和文誌については、畠田智和文誌編集委員長より「藻類」の2014年度および2015年度の編集状況に関する報告があった。2014年度については62巻（2014年）に7編の原著論文のほか、藻類学最前線、特集：研究奨励賞受賞記念、論文賞受賞記念、藻類と学名等の報文24編、大会プログラムと同講演要旨、企画記事、学会録事等が掲載され、総頁数は188頁であったことの報告があった。2015年度については63巻の刊行計画と編集方針の説明があった。和文誌「藻類」の論文賞の制定について審議が行われた。

評議員会は編集委員会終了後、同会場にて16:30より行われた。2015年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議が行われた。内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2015年度総会

大会2日目（3月21日）17:00より九州大学箱崎キャンパス共通講義棟302教室にて、総会を行った。田中次郎学会会長と川口栄男大会会長の挨拶の後、野呂忠秀氏（鹿児島大学）を議長に選出し、議事に入った。

【報告事項】

・庶務関係

(1) 会員状況（2015年2月28日現在）：名誉会員4名、普通会員991名（国内・一般609名、国内・学生210名、外国172名）、団体会員44名、賛助会員9名、「藻類」国内定期購読18件（6月1日現在）。

(2) 2014年度事業報告：1) 日本藻類学会第38回大会・評議員会・総会（東邦大学習志野キャンパス、2014年3月14～16日）の開催、2) 和文誌「藻類」62巻1～3号の発行、3) 英文誌「Phycological Research」62巻1～4号の発行（1, 4, 7, 10月発行）、4) 持ち回り評議員会の実施（2回）、5) 日本藻類学会次期会長選挙および評議員選挙の実施（7～8月）、6) 第17回日本藻類学会論文賞の授与と第18回日本藻類学会論文賞の選考、7) 第10回日本藻類学会研究奨励賞の選考、授与と第11回日本藻類学会研究奨励賞の募集、8) 「アルガムービー鑑賞会」（2014年3月14日、東邦大学理学部Ⅲ号館203室）の開催、9) 日本藻類学会第38回大会企画シンポジウム「若手研究者による緑色藻類研究最前線－何が何処までわかったのか?－」（2014年3月15日、東邦大学理学部Ⅴ号館5101教室）の開催、10) 公開講演会「ちば・知られざる藻類の世界発見～多様性と絶滅、そして日本の味～」(2014年3月16日、東邦大学薬学部C棟C101講義室)の開催、11) 藻類学ワークショップ(1)「淡水藻類の採集、観察と同定入門」講義編（2014年3月16日、東邦大学理学部Ⅴ

表1. 2014年度一般会計決算(2014.1.1-2014.12.31)

収入(円)			支出(円)		
会費		5,443,000	和文誌経費		1,771,606
普通(国内・一般)	3,741,000		英文誌経費		4,435,150
普通(国内・学生)	345,000		編集費		152,153
外国会員	323,000		和文誌編集補助費	89,218	
団体会員	794,000		英文誌編集補助費	62,935	
賛助会員	240,000		庶務費		301,682
和文誌関係収入		854,900	事務用品費	17,853	
定期購読	171,900		会議費	0	
バックナンバー	0		通信印刷費	283,829	
別刷・超過頁代	495,000		諸雑費	0	
広告代	180,000		幹事旅費補助		56,578
著作権許諾料金	8,000		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		1,541,439	自然史学会連合分担金		20,000
定期購読	14,000		分類学会連合分担金		10,000
掲載料・超過頁代	1,230,000		レンタルサーバー代		6,852
版權還付金	297,439				
受取利息		1,194			
小計		7,840,533	小計		6,874,021
前年度繰越金		13,280,295	次年度繰越金		14,246,807
合計		21,120,828	合計		21,120,828

表2. 2014年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(2014.1.1-2014.12.31)

収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,515,680	論文賞用雑費	33,600
受取利息	400		
普通預金		次年度繰越金	2,482,480
合計	2,516,080	合計	2,516,080

表3. 2014年度研究奨励賞事業特別基金会計決算(2014.1.1-2014.12.31)

収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,641,115	奨励賞賞金	200,000
受取利息	618		
普通預金		次年度繰越金	2,441,733
合計	2,641,733	合計	2,641,733

日本藻類学会 2014年度決算書に対し記名捺印する

2014年度 会長 田中 次郎 印

2014年度 会計幹事 松岡 孝典 印

決算書が適正であることを認める

2014年度 会計監事 坂西 芳彦 印

2014年度 会計監事 倉島 彰 印

2015年3月18日

2015年3月18日

号館5209教室)の開催, 12)藻類学ワークショップ(2)「淡水藻類の採集, 観察と同定入門」実習編(2014年3月17, 18日, 東邦大学理学部II号館生物学科顕微鏡実験室2308室)の開催, 13)エクスカッション「東京湾多摩川河口干潟アサクサノリ観察会」(2014年3月17日, 大師河原干潟館ほか)の開催, 14)和文誌「藻類」の転載許可状況(1件), 15)自然史学会連合の事業に参加, 2014年12月6日に東京大学総合研究博物館ミューズホールで開催された2014年度自然史学会連合総会に北山太樹会員が出席, 誠文堂新光社「子供の科学」90周年特別企画の一環として加盟学協会(編集委員として北山太樹会員が出席)から話題を募った『理科好きな子に育つ ふしぎのお話365』の出版(2015年2月10日)に際し, ライターによる取材・執筆・編集作業が行われ, 本学会からは10名の会員が執

筆に協力, 講演会「自然史まつり in いばらぎ」が, 2014年11月23日にミュージアムパーク茨城自然博物館(茨城県坂東市)で開催, 本学会からは野崎久義会員による講演「第一線の研究者が語る進化の謎・ボルボックスの仲間を用いて探るメスとオスの進化」と野田三千代会員によるブース型体験教室「体験! わくわくミュージアム・一海の森からの贈り物-海藻おしば教室」の参加, 16)日本分類学会連合の事業に参加, 2015年1月10, 11日に国立科学博物館上野本館講堂で開催された日本分類学会連合第14回総会およびシンポジウムに田中次郎会長と鈴木秀和庶務幹事が出席, 17)水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加, 2014年5月21日および11月17日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された平成26年度第1回協議会および第2回協議会に田中次郎会長が出席, 18)日本学術

会議主催学術フォーラムを後援，2014年8月1日に日本学術会議講堂（東京都港区六本木）で開催された日本学術会議主催学術フォーラム「初等中等教育における海洋教育の意義と課題－海洋立国を担う若手の育成に向けて－」で川井浩史会員がパネルディスカッション「海洋立国を目指すには海洋教育をどう進めるべきか」にパネリストとして参加，19) 日本学術会議主催学術フォーラムを後援，2014年11月21日に日本学術会議講堂（東京都港区六本木）で開催された日本学術会議と食料科学委員会水産学分会主催学術フォーラム「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて（第2回）－日本学術会議の第二次提言を踏まえて－」の第三部で田中次郎会長が「藻場のモニタリングー東北から北関東の太平洋沿岸ー」を講演，20) 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載，2015年3月現在，第61巻第1号まで閲覧・ダウンロード可能，21) 学会HPによる情報配信，主な掲載内容はシンポジウム等のお知らせ7件，研究助成の募集1件，諸賞の募集4件，教員・研究員募集1件，その他のお知らせ4件，22) 学会連絡メールによる情報配信，現在，277名の方がメーリングリストに登録，主な配信内容はシンポジウム等のお知らせ3件，教員・研究員募集1件，その他のお知らせ2件。

・会計関係

(1) 2015年2月28日現在の2014年度会費納入率（雑誌発送会員を対象）は，普通会员（国内・一般）98%，普通会员（国内・学生）100%，普通会员（外国）78%，賛助会員100%，団体会員68%であった。

(2) 2014年度一般会計決算等，その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2014年度に発行した英文誌「Phycological Research」62巻1～4号は，総頁数323頁，掲載論文数33編であった。

(2) 2014年度に発行した和文誌「藻類」62巻1～3号は，総頁数188頁，内訳は原著論文7編のほか，藻類学最前線，特集：研究奨励賞受賞記念，論文賞受賞記念，藻類と学名等の報文24編，大会プログラムと同講演要旨，企画記事，学会録事等であった。

これらに関連した詳細については，前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

・会計関係

(1) 2014年度一般会計決算報告および同監査報告（会計監事：坂西芳彦氏，倉島彰氏）は表1のとおり承認された。

(2) 2014年度山田幸男博士記念事業基金特別会計の決

表4. 2015年度一般会計予算（2015.1.1-2015.12.31）

収入（円）			支出（円）		
会費		5,937,050	和文誌経費		1,700,000
普通（国内・一般）	4,111,200		英文誌経費		4,600,000
普通（国内・学生）	313,500		編集費		300,000
普通（外国）	392,350		英文誌編集補助費	200,000	
団体会員	880,000		和文誌編集補助費	100,000	
賛助会員	240,000		庶務費		227,000
和文誌関係収入		447,600	事務用品費	10,000	
定期購読	120,600		会議費	60,000	
バックナンバー	3,000		通信印刷費	150,000	
別刷・超過頁代	200,000		諸雑費	7,000	
広告代	120,000		幹事旅費補助		40,000
著作権許諾料金	4,000		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		1,364,000	自然史学会連合分担金		20,000
定期購読	14,000		分類学会連合分担金		10,000
超過頁代・掲載料	1,100,000		レンタルサーバー代		6,800
版權還付金	250,000		AlgaeBaseへの寄付		50,000
受取利息		1,000			
小計		7,749,650	小計		7,073,800
前年度繰越金		14,068,807	次年度繰越金		14,744,657
合計		21,818,457	合計		21,818,457

表5. 2015年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算（2015.1.1-2015.12.31）

収入（円）		支出（円）	
受取利息	普通預金 400	論文賞用雑費	16,500
前年度繰越金	2,482,480	次年度繰越金	2,466,380
合計	2,482,880	合計	2,482,880

表6. 2015年度研究奨励賞事業特別基金会計予算（2015.1.1-2015.12.31）

収入（円）		支出（円）	
受取利息	普通預金 420	奨励賞賞金	200,000
前年度繰越金	2,441,733	次年度繰越金	2,242,153
合計	2,442,153	合計	2,442,153

算報告および同監査報告は表2のとおり承認された。

(3) 2014年度研究奨励賞事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表3のとおり承認された。

(4) 2015年度一般会計、山田幸男博士記念事業基金特別会計、および研究奨励賞事業基金特別会計の予算は表4、表5および表6のとおり承認された。

・庶務関係

(1) 学会賞「特別賞」および「学術賞」の新設と「研究奨励賞」の改廃について、下記授賞対象等の評議員会案の説明があり、審議の結果、承認された。詳細な選考規定については持ち回り評議員会に諮ることとなった。

特別賞：我が国の藻類学の発展に顕著な貢献をし、長年にわたりこの学会の発展に寄与した者に授与する。

学術賞：藻類学分野において独創性の高い研究を行い、その成果が高い評価を受け、この学会の研究の発展に大きな寄与した者に授与する。

研究奨励賞：我が国の藻類学の発展に積極的に寄与することを期待し、藻類学及びその関連分野において優れた研究成果を上げた大学院修了後5年程度以内、おおむね40歳未満の者に授与する。

※ 研究奨励賞に関しては、現在の要綱を改廃し、新しい選考規定に組み込むこととする。

(2) AlgaeBaseのスポンサーとしてのサポート(5万円の寄付)について評議員会案の説明があり、審議の結果、承認された。

(3) 2015年度事業計画として以下の事項が承認された：1) 日本藻類学会第39回大会・評議員会・総会(九州大学箱崎キャンパス, 2015年3月20日～22日)の開催, 2) 和文誌「藻類」63巻1～3号の発行, 3) 英文誌「Phycological Research」63巻1～4号の発行(1, 4, 7, 10月発行), 4) 第18回日本藻類学会論文賞の授与と第19回日本藻類学会論文賞の選考(12月), 5) 第1回日本藻類学会特別賞の募集と選考, 6) 第1回日本藻類学会学術賞の募集と選考, 7) 第11回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与と第12回日本藻類学会研究奨励賞の募集, 8) 日本藻類学会第39回福岡大会企画公開特別講演会「大型藻類の未来ポテンシャルを求めて」(2015年3月21日, 九州大学箱崎キャンパス文系地区・共通講義棟302教室)の開催, 9) 日本藻類学会第39回福岡大会企画ミニシンポジウム「大型藻類バイオリファイナリー研究の最新の進捗と将来展望」(2015年3月22日, 九州大学箱崎キャンパス文系地区・共通講義棟301教室)の開催, 10) 藻類学ワークショップ「藻類の和名について考える」(2015年3月22日, 九州大学箱崎キャンパス・文系講義棟204教室)と「福岡の藻類 採集・観察会」(2015年3月23日～25日, 九州大学大学院農学研究院附属水産実験所・福岡県福津市津屋崎)の開催, 11) 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載, 12) 自然史学会連合の事業に参加, 13) 日本分類学会連合の事業に参加, 14) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業

に参加, 15) 学会HPによる情報配信, 16) 学会連絡メールによる情報配信, 17) 第17回バイオテクノロジー学会大会(2015年5月30日～31日, 東京海洋大学品川キャンパス)の協賛。

・その他

(1) 2015-2016年度の会計監事として、長田敬五氏(日本歯科大学新潟)と芹澤如比古氏(山梨大学)が承認された。

(2) 日本藻類学会第40回大会(2016年3月18日～20日)の開催地を日本歯科大学(東京)とすることが承認された。

【日本藻類学会論文賞授与】

第18回(2014年)日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2014年に発行された英文誌「Phycological Research」62巻1～4号の中から、規定に従い審査員の投票によって選ばれ、合同編集委員会および評議員会です承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ、論文の著者に賞状および記念品が授与された。Shinya Yoshikawa, Mitsunobu Kamiya and Kaori Ohki. Photoperiodic regulation of receptacle induction in *Sargassum horneri* (Phaeophyceae) using clonal thalli. Phycological Research 62 (3): 206-213.

【日本藻類学会研究奨励賞授与】

第11回(2015年)日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、評議員会です承されたものである。今回は石井健一郎氏(京都大学大学院地球環境学環境生命技術論分野, 沿岸域における珪藻類の生活史戦略と個体群動態の解明)と中山卓郎氏(筑波大学計算科学研究センター, 原生生物に見られる細胞内共生シアノバクテリアと宿主細胞の統合進化)が選ばれ、それぞれに賞状および副賞(賞金10万円)が授与された。

2. 2015年第1回持ち回り評議員会報告

第1回持ち回り評議員会(2015年4月8日～4月22日)を開催し、「日本藻類学会会則第6条第4項と名誉会員制内規に基づき、原慶明氏を名誉会員(2014年度～)に推薦する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員16名のうち14名から回答があり、回答者全員の賛成により、審議事項が承認された。